

企業援農で  
収穫作業を応援

01

11月6日、管内の園地に7社の企業から32名が援農へ訪れた。

この援農は、農業を深く理解してもらおうとともに、生産者の労働力不足解消に繋げる為、毎年JA青森中央会が主催しているもので、今年で4年目の取組となる。

援農者は収穫作業や反射シート剥ぎ、葉取作業等を手伝い、初めて行った作業を楽しんでいた。

援農を受け入れた生産者の一人である紙漕沢地区の成田達也さんは「1年の中で一番忙しい時期に人手が増えるのはとても助かる。収穫だけでなく運搬から積み上げも手伝ってもらい、とても助かった」と話した。

また、援農者の1人である日本原燃株の近藤美智子さんは「リンゴ園に初めて足を踏み入れました。収穫作業はもぎ取る時にポキポキと音が鳴り、気持ちがいいです。一生涯命育てたリンゴを丁寧に収穫し、少しでも生産者の助けになりたいです」と初めて行った収穫作業に感想を述べていた。



気持ちよく収穫作業をする援農者の近藤さん



葉取作業に黙々と取組む援農者

荷揚げ作業を軽労化

02

リンゴ収穫作業に伴い、長い期間リンゴ箱を5段目に積み上げることにも苦慮していた五所地区の三上由紀夫さんは、その労力を軽減する為に「五段目上げる君」と名付けた機械を作製した。使用した部品などはホームセンターやオークションで買ったものを使用し、低コストで作製。

三上さんは「女性でも持ち運びできるようにローラーを付ける等の工夫もした。これを使ったことで体の負担は大幅に軽減された。今後さらに改良していきたい」と話していた。



誰でも軽々と五段積みができる

集荷サービス好調

03

11月22日、青年部では田園ステーションにて昨年に引き続きクロナコヤマトの集荷サービスを行った。昨年の初日は148件であったが、今年の初日は384件と26倍以上の件数となった。

当事業を行った湯口地区の溝江翼さんは「昨年からの取組が拡がったのか、今年はかなり件数が増えて、地域に少しずつ浸透している事を実感した。また来年も件数が伸びるようにサービスを提供したい」と意気込んでいた。



部員が沢山の荷物を丁寧に運ぶ

topics

## 全国大会優勝目指して

04



大場組合長へ抱負を述べる蝦名陽翔キャプテン

11月25日、少年野球チーム相馬ドリームキッズの児童12名は、三重県で行われる第2回お伊勢さん杯全国選抜少年野球大会出場のお知らせに来協した。

同チームは、結成8年目にして初の全国大会出場となる。

キャプテンの蝦名陽翔君は「初めての全国大会で優勝カップを持って帰れるように精一杯チームで頑張りますので、応援宜しくお願いします」と大場勉代表理事組合長へ抱負を述べていた。

topics

今年最後の  
廃プラ回収事業

05



使えなくなった反射シートを処分する生産者

11月30日～12月1日の2日間、湯口支所と相馬支所にて今年最後の農業用資材の廃プラ回収事業を行った。

今年最後の回収事業という事もあり、農作業を終えた生産者らが処分する資材を持ち込んだ。

資材の廃棄に訪れた生産者は「農作業がひと段落し、資材を整理したら廃棄するものが沢山あった。また来年から新しい資材で農作業を心機一転して頑張りたい」と話していた。

topics

相馬のリンゴで  
ケーキ作り

06



食べやすいサイズにケーキを切り分ける中嶋さん

12月1日、女性部が中央公民館相馬館でリンゴケーキ作りを行った。

本来であれば、相馬小学校3年生のリンゴ学習を行った児童と一緒に作る予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、女性部のみで行った。

ケーキ作りを行った中嶋美保子さんは「児童にもこのケーキを食べてもらって、リンゴ栽培の様にケーキ作りも楽しんで欲しい」と話していた。

topics

リンゴ学習  
よく頑張りました

07



1人1人にケーキを手渡す田澤部長

12月1日、女性部がリンゴ学習を行った相馬小学校3年生の児童11名に、リンゴ学習を頑張ったとしてリンゴケーキやリンゴジュースなどを贈呈した。

また、リンゴを使ったデザートレシピも入っており、親子では非作って欲しいという気持ちが入められている。

一人一人に贈呈した田澤真由美部長は「リンゴ学習を通して大変さなど感じたと思います。今回学んだことを今後も活かしてください」と児童へ話していた。